

マニユライフ・米国銀行株式ファンド
マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）（愛称：アメリカン・バンク）
米国銀行株式の急落を受けた運用状況について

マニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社

平素より「マニユライフ・米国銀行株式ファンド／マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）」（以下、「当ファンド」）をご愛顧賜り、誠にありがとうございます。
当レポートでは、足元の運用状況と今後の見通しについてお伝えします。

1. 当ファンドの基準価額の推移

※当ファンドの主要投資対象である、マニユライフ・米国銀行株式マザーファンド（以下「マザーファンド」）の状況です。

- 2020年後半から堅調に推移してきたマザーファンドの基準価額は、2022年11月初に設定来最高値をつけて以降、軟調な展開となりました。
- 特に、2023年3月初旬の米国地方銀行破綻などのイベントを受け、当ファンドの基準価額は下落ペースを早める動きとなりました。

マザーファンドの設定来の基準価額の推移



年初来の運用状況

■ 年初～2月末

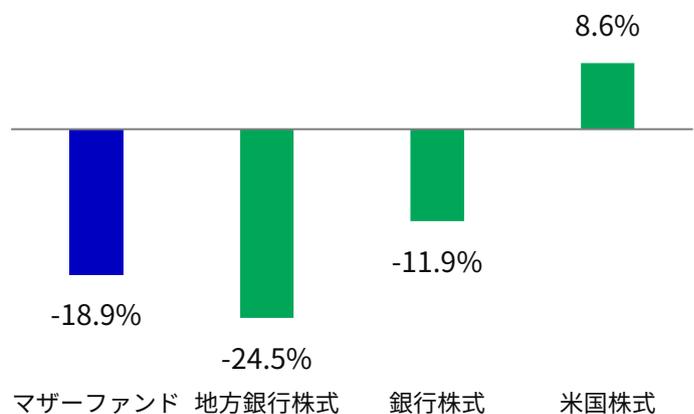
米国で景気鈍化に対する過度な不安が後退し、株式市場や米ドルが総じて上昇したことが追い風となり、当ファンドの基準価額は上昇基調となりました。

■ 2月末～3月末

3月に入り、複数の米国地方銀行が経営破綻や事業清算を発表したことを受け、米国銀行株式全般が大きく下落し、当ファンドの基準価額も軟調に推移しました。

* 期間：2022/12/30～2023/3/31

マザーファンドと米国株式市場の年初来*騰落率



※基準価額（分配金込み）は、信託報酬等控除前の値です。

※基準価額（分配金込み）は、税引き前分配金を全額再投資したものと計算しています。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

※地方銀行株式：S&P総合1500地方銀行株指数、銀行株式：S&P総合1500銀行株指数、米国株式：S&P総合1500種指数（すべて配当込み、円換算ベース）

※当該運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

出所：ブルームバーグのデータをもとにマニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社が作成

2. 足元の米国銀行株式の急落について

- 2023年3月以降、米国の地方銀行であるシリコンバレー銀行（SVB）やシグネチャー銀行が経営破綻を発表しました。
- 両行の突然の経営破綻によって投資家のリスク回避姿勢が強まり、米国株式市場のボラティリティ（価格変動性）が高まりました。特に地方銀行セクターは大きな下落となりました。
- 今回の銀行の連続破綻について、米国政府や金融当局は事態を重く受け止め、金融システム不安を回避する目的から、緊急措置を発表しました。
- また、米国以外でもスイスの金融大手であるクレディ・スイス・グループに公的支援が入り（のちに同社はUBSグループに買収されると発表）、同社発行のAT1債の元本が全額削減されました。こうした材料は欧米での金融システム不安を高める材料と見られ、米国銀行株式の下押し要因となりました。

2023年3月に発生した米国銀行株式関連イベント			米金融当局による緊急措置	
シルバーゲート銀行	自主清算	非保有	FRB	金融機関が保有する米国債などを担保に、簿価基準で短期融資を提供する「BTFP（Bank Term Funding Program）」を施行
シリコンバレー銀行	経営破綻	非保有*		
シグネチャー銀行	経営破綻	非保有	米財務省 FRB FDIC	破綻した2行の預金について、FDICが規定する預金上限額（1口座当たり25万米ドル）を超過した分についても預金保護の対象に
ファースト・リパブリック銀行	配当支払い停止	非保有		

※保有状況については、上記事由が発生した時点です。

また、2023年3月末時点でも保有はございません。

*親会社であるSVBファイナンシャル・グループの株式

※FRB：米連邦準備制度理事会、FDIC：米連邦預金保険公社

- 当ファンドの組入上位10銘柄の株価を見ると、2023年1～2月には回復傾向を辿っていましたが、今回の米国銀行株式全体の混乱により、3月に大きく下落しました。

当ファンドの2月末組入上位10銘柄の株価騰落率（3月末現在、米ドルベース）

銘柄名	騰落率			
	2023年1～2月	2023年3月のみ	2023年初来（1～3月）	2022年
1 M&Tバンク	7.1%	-23.0%	-17.6%	-5.5%
2 ハンチントン・バンクシェアーズ	8.7%	-26.9%	-20.6%	-8.6%
3 リージョンス・ファイナンシャル	8.2%	-20.4%	-13.9%	-1.1%
4 シチズンズ・フィナンシャル・グループ	6.1%	-27.3%	-22.9%	-16.7%
5 J Pモルガン・チェース・アンド・カンパニー	6.9%	-9.1%	-2.8%	-15.3%
6 キーコープ	5.0%	-31.5%	-28.1%	-24.7%
7 フィフス・サード・バンコープ	10.6%	-26.6%	-18.8%	-24.7%
8 ピナクル・ファイナンシャル・パートナーズ	0.9%	-25.6%	-24.9%	-23.1%
9 ザイオンズ・バンコーポレーション,N.A.	3.0%	-40.9%	-39.1%	-22.2%
10 バンク・オブ・アメリカ	3.6%	-16.6%	-13.6%	-25.6%

※上記の実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※上記は個別銘柄を推奨するものではありません。また、当ファンドへの組入を示唆・保証するものではありません。

※当資料に記載された見解・見通し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

※当資料のいかなる内容も、将来の投資収益を示唆、保証するものではありません。

3. 金融危機時に効果を発揮するCAMELS分析

- 当ファンド運用では、FRBの銀行検査官が銀行の健全性を評価する際の枠組みであるCAMELS分析を活用した銘柄分析を行っています。
- CAMELS分析の結果、今回経営破綻や問題視された銀行の株式については当ファンドでは保有していませんでした。
- また、2008年の金融危機時においても、精緻な銘柄分析から、事前にサブプライム関連の銀行を売却し、優良地方銀行を組入れたことで、市場の急落に伴う基準価額下落を抑制しました。

米国当局も採用するCAMELS分析を活用した銘柄分析

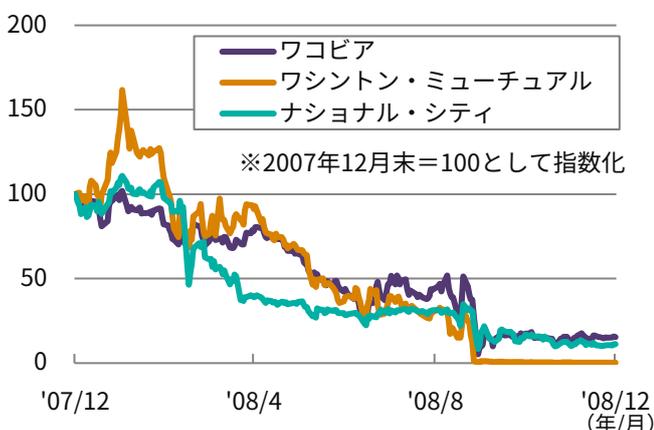
C	資本構成 (Capital) 自己資本の妥当性評価 (トータル・レバレッジ比率や自己資本規制比率など)
A	資産の質 (Asset Quality) 資産構成に係る分析、貸出政策および貸出手順、ローン担当部門の報酬体系などの確認
M	経営陣の能力 (Management) 経営幹部との面談や事業部門各責任者との面談を通じて、企業文化や経営・事業戦略を評価
E	収益率 (Earnings) 精緻な収益予測モデルで将来の収益を予測した上で、投資妙味の高い投資タイミングを特定
L	流動性 (Liquidity) 有価証券ポートフォリオの分析、調達手段についての精査、キャッシュの保有状況等の確認
S	金利感応度 (Sensitivity to Interest Rates) リスク管理体制の確認、運用・調達期間のマッチング状況等を評価

	シリコンバレー銀行	シグネチャー銀行
今回の事例	L: 流動性 S: 金利感応度 他社対比で預金調達コストが上昇傾向にあったこと、保有有価証券のリスクの高まりから非保有	A: 資産の質 政府規制が強まっている仮想通貨関連企業を中心に事業展開を行っていることから非保有

2008年 金融危機時の投資行動事例

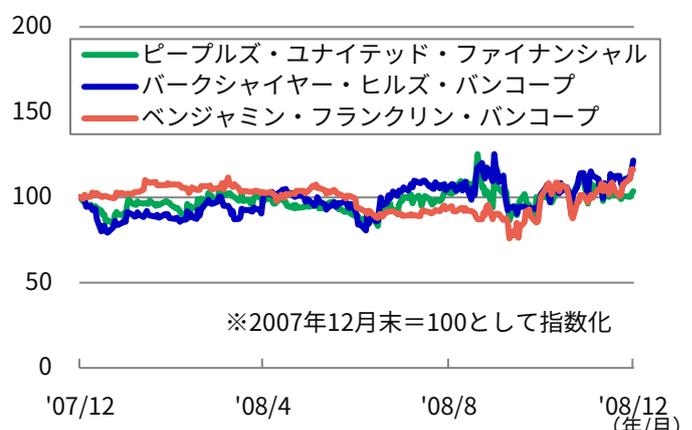
⊘ サブプライム関連銀行を除外

株価推移 (2007年12月末～2008年12月末、日次)



○ 優良地方銀行を組入れ

株価推移 (2007年12月末～2008年12月末、日次)



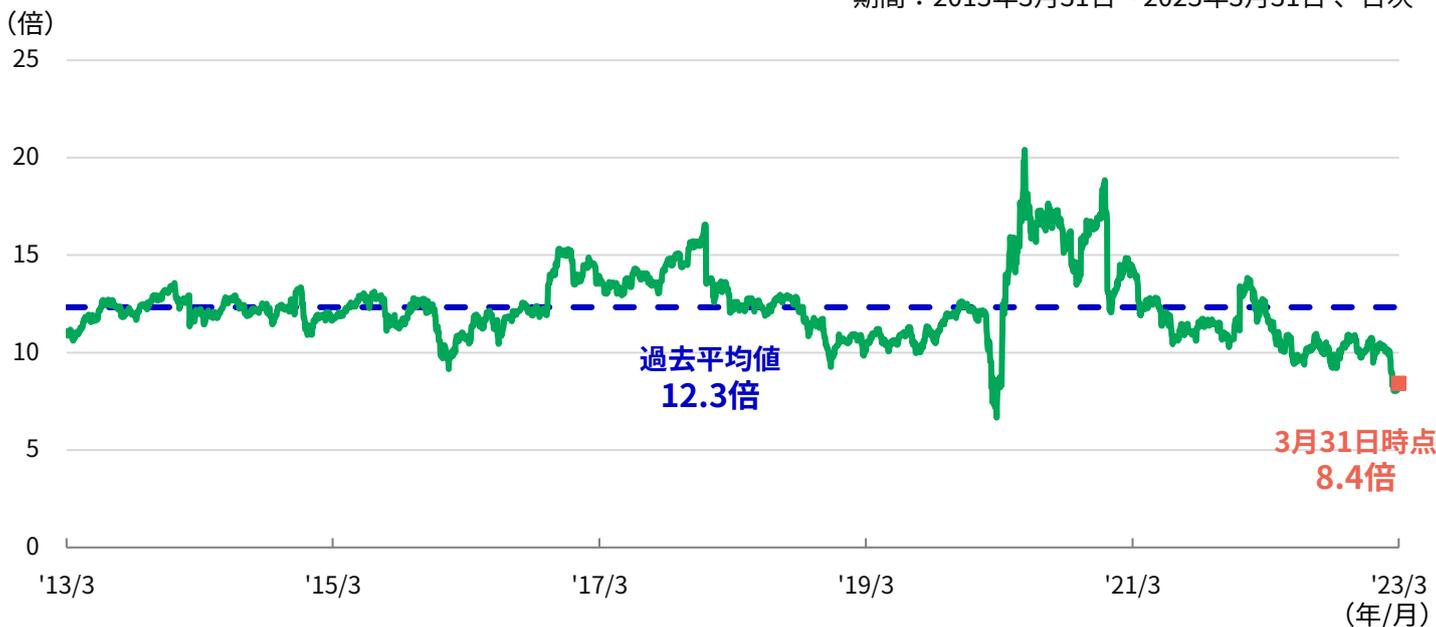
※上記は個別銘柄を推奨するものではありません。また、当ファンドへの組入を示唆・保証するものではありません。
 ※当資料に記載された見解・見通し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。
 ※当ページの実績は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

4. 今後の見通しについて

- 直近の米国銀行株式市場の下落は、個別企業のファンダメンタルズや業績・財務状況に関わらず、ショック時に見られる投資家の「パニック売り」的な要素が強く出ていていると考えます。
- 当社では今回の経営破綻はシリコンバレー銀行やシグネチャー銀行が抱える固有の問題がイベント発生の主な原因であったと考えており、大手金融機関を巻き込んだ「金融危機」に発展する可能性は現時点で低いと考えています。
- FDIC監督下の金融機関は2022年12月末時点で4,706社存在しており、玉石混交の業界であると考えます。破綻により市場に大きな影響を与えた銀行は、業界における「石」であったとも言えます。
- 米国の金融システムへの不安を収束させるために、米国政府や金融当局はセーフティーネットとなる措置を敷いており、事態は改善方向に向かっていると考えます。一方、現時点では米国銀行セクターに対する不透明感が完全に払しょくされた状態ではないことから、短期的にはボラティリティが高い状況が続く見込みです。
- 一方、米国地方銀行セクターは大きな株価下落によりPER（株価収益率）が過去平均を大きく下回る8倍台まで低下し、足元のバリュエーションは割安な水準に到達していると考えられます。
- 当ファンドでは中長期的に持続的な成長が見込めると判断される米国の銀行・金融機関の株式に選別的に投資し、引き続き地方銀行グループへの高い投資比率を維持してまいります。

（ご参考）米国銀行株式PERの推移

期間：2013年3月31日～2023年3月31日、日次



※米国銀行株式：S&P総合1500銀行株指数、取得不可日は直前営業日の数値を使用

※上記は個別銘柄を推奨するものではありません。また、当ファンドへの組入を示唆・保証するものではありません。

※上記のデータは過去の実績であり、将来の市場動向、および当ファンドの運用成果を示唆または保証するものではありません。

※当資料に記載された見解・見通し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

※当資料のいかなる内容も、将来の投資収益を示唆、保証するものではありません。

5. 過去の運用実績

マニュライフ・米国銀行株式ファンド

■ 設定来の基準価額および純資産総額の推移
(2015年11月20日(設定日)～2023年3月31日、日次)



■ ファンドの現況 (2023年3月31日時点)

基準価額	8,014円
純資産総額	122.7億円

■ 分配実績 (1万口当たり、税引き前)

決算期		分配金
第24期	2021年10月	700円
第25期	2022年1月	1,000円
第26期	2022年4月	0円
第27期	2022年7月	0円
第28期	2022年10月	500円
第29期	2023年1月	0円
設定来合計		6,200円

マニュライフ・米国銀行株式ファンド (資産成長型)

■ 設定来の基準価額および純資産総額の推移
(2018年7月9日(設定日)～2023年3月31日、日次)



■ ファンドの現況 (2023年3月31日時点)

基準価額	10,338円
純資産総額	97.3億円

■ 分配実績 (1万口当たり、税引き前)

決算期		分配金
第1期	2019年7月	0円
第2期	2020年7月	0円
第3期	2021年7月	0円
第4期	2022年7月	0円
第5期	2023年7月	-
第6期	2024年7月	-
設定来合計		0円

※基準価額、基準価額(分配金込み)は、信託報酬等控除後の値です。

※基準価額(分配金込み)は、税引き前分配金を全額再投資したものと計算しています。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

※分配実績は、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆または保証するものではありません。分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。

※当ページの実績は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

マニユライフ・米国銀行株式ファンド／マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型） （愛称：アメリカン・バンク）

ファンドの特色

① 主として米国の銀行・金融機関の株式に投資を行います。

- 個別企業の調査・分析を重視したボトムアップ・アプローチにより、銘柄選択を行います。
- 銀行の資本構成、資産の質、経営陣の能力、収益率、流動性および金利感応度などを精査し、中長期的に持続的な成長が見込めると判断される米国の銀行・金融機関の株式に投資を行います。

② マニユライフ・インベストメント・マネジメント（US）LLCが運用を担当します。

- マニユライフ・インベストメント・マネジメント（US）LLCは、グローバル金融サービスを提供するマニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーション傘下の資産運用会社です。

③ 「マニユライフ・米国銀行株式ファンド」

3ヵ月ごとに決算を行い、年4回分配を行うことをめざします。

- 毎年1、4、7、10月の各20日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

「マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）」

年1回決算を行います。

- 毎年7月20日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行います。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。

※分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）については、信託財産の成長に資することに配慮して分配を行わないことがあります。

④ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

- 外貨建ての株式等への投資にあたっては為替ヘッジを行わないため、為替変動による影響を受けます。

※資金動向・市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク ※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）にてご確認ください。

■基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンドを通じて値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

投資信託は預貯金と異なり、投資元本は保証されているものではありません。また、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。ファンドの運用による利益および損失は、すべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。

■主な変動要因

株価変動リスク	株式の価格は、一般に発行企業の業績・財務状況、株式市場の需給、国際的な政治・経済情勢等の影響を受け変動します。組入株式の価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、発行企業の財務状況の悪化・倒産やその可能性が予想される場合には、損失が生じたり投資資金が回収できなくなる場合があります。
為替変動リスク	ファンドが実質的に投資している外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に変動した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

■その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。また、分配金水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

お申込みメモ ※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）にてご確認ください。

購入単位	販売会社が定める単位とします。（詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。）
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金単位	販売会社が定める単位とします。（詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。）
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の解約価額（解約価額＝基準価額－信託財産留保額）とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
購入・換金申込不可日	・ニューヨークの銀行休業日 ・ニューヨーク証券取引所休業日 ※詳しい申込不可日については、販売会社または委託会社にお問い合わせ下さい。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口換金については、委託会社の判断により換金金額や換金受付時間に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	委託会社は、金融商品取引所等の取引停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金申込の受付を取消すことがあります。
スイッチング	販売会社によっては、スイッチングができる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。
信託期間	2026年7月21日まで（マニユライフ・米国銀行株式ファンド：2015年11月20日設定／マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）：2018年7月9日設定）
繰上償還	各ファンドにつき純資産総額が30億円を下回った場合等の事由によっては、繰上償還となる場合があります。
決算日	マニユライフ・米国銀行株式ファンド：毎年1、4、7、10月の各20日（休業日の場合は翌営業日）とします。 マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）：毎年7月20日（休業日の場合は翌営業日）とします。
収益分配	毎決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。収益分配額は委託会社が基準価額の水準・市況動向等を勘案して決定します。（販売会社によっては分配金の再投資が可能です。詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。） ※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。 ※分配対象額が少額の場合には、委託会社の判断で分配を行わないことがあります。マニユライフ・米国銀行株式ファンド（資産成長型）については、信託財産の成長に資することに考慮して分配を行わないことがあります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

※その他の事項については、投資信託説明書（交付目論見書）の「手続・手数料等」をご覧ください。

ファンドの費用 ※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）にてご確認ください。

■投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、 3.3%（税抜3.0%） を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。（詳細は販売会社にお問い合わせ下さい。）
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.2% を乗じて得た額をご換金時にご負担いただきます。

■投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）	毎日のファンドの純資産総額に 年率1.87%（税抜1.70%） を乗じて得た額とします。		
	＜運用管理費用（信託報酬）の配分（税抜）＞ 信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率		
	委託会社	年率 0.86%	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出等の対価
	販売会社	年率 0.80%	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
受託会社	年率 0.04%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価	
その他の費用・手数料	法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して 年率0.2%（税込） を上限として合理的に見積もった額が毎日計上され、ファンドから支払われます。組入有価証券等の売買にかかる売買委託手数料、信託事務の諸費用等は、ファンドからご負担いただきます。これらの費用は、運用状況、保有期間等により変動するため、事前に料率、上限額等を記載することができません。		

※ファンドの費用の合計額については、運用状況および保有期間等により異なるため、事前に合計額または上限額あるいは計算方法を記載できません。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

委託会社、その他の関係法人

委託会社	マニユライフ・インベストメント・マネジメント株式会社（設定・運用等） 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第433号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社（信託財産の保管および管理等）
販売会社	次ページ以降の販売会社一覧をご覧ください。（募集・換金の取扱い・目論見書・運用報告書の交付等） ※目論見書は販売会社でお受け取りいただけます。
運用権限の委託先会社	マニユライフ・インベストメント・マネジメント（US）LLC（投資運用業等）

販売会社一覧

販売会社名	登録番号等	加入協会				取扱ファンド	
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	マニュライフ・米国銀行株式ファンド	マニュライフ・米国銀行株式ファンド(資産成長型)
株式会社京都銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第10号	○		○		○	
株式会社三十三銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第16号	○				○	
株式会社北洋銀行	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第3号	○		○		○	
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3283号	○	○			○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第67号	○	○	○		○	○
池田泉州T T証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第370号	○				○	○
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○		○	
a u カブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○	○	
S M B C 日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○	○	○
株式会社S B I証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	○	
岡三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○	○	○
極東証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第65号	○			○	○	
Jトラストグローバル証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号	○				○	
七十七証券株式会社	金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第37号	○				○	
十六T T証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第188号	○				○	
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○	○	
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第114号	○				○	○
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○		○	○	○	○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号	○			○	○	
内藤証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第24号	○			○	○	
西日本シティT T証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長(金商)第75号	○				○	
浜銀T T証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1977号	○				○	
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第20号	○				○	
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第152号	○	○			○	
ほくほくT T証券株式会社	金融商品取引業者 北陸財務局長(金商)第24号	○				○	

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。

販売会社一覧

販売会社名	登録番号等	加入協会				取扱ファンド	
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	マネュライフ・米国銀行株式ファンド	マネュライフ・米国銀行株式ファンド(資産成長型)
北洋証券株式会社	金融商品取引業者 北海道財務局長(金商)第1号	○				○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○	○	
丸三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第167号	○				○	○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第181号	○	○			○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	○	○
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○		○	

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせ下さい。

ご留意いただきたい事項

- 当資料は、マネュライフ・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「当社」といいます。）が作成した販売用資料です。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断下さい。
- 投資信託は、預金等や保険契約と異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、預貯金と異なり 元本や利回りの保証はありません。銀行等の登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 当資料は信頼できると判断した情報に基づいておりますが、当社がその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の記載内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更される場合があります。
- 当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料の一部または全部について当社の事前許可なく転用・複製その他一切の行為を行うことを禁止させていただきます。
- 当資料に記載された個別の銘柄・企業名は参考情報であり、当社がこれらの銘柄について取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。
- 当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。
- 当資料に記載された見解・見通し・運用方針は作成時点における当社の見解等であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。